

「新しい生活様式」における対話的な学びについて

富士見市教育委員会

学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」のために、特に「対話的な学び」について適切な感染症対策をとり、どのように実現できるかを考え、工夫して実施していきたい。

1 対話的な学びとは

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

何のために

自己の考えを広げ、深めるため

実現に向けて

- ① 子供が一方通行の発言をするのではなく、つながりのある双方向の対話になるようにする。
- ② 対話等を通じて、多様な情報や考えを収集したり、自分にはない異なる考えに気付かせたりする。
- ③ 子供同士が互いの考えを比較検討しながら、他者の考えを取り入れて解決させるようにする。
- ④ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話をさせるようにする。

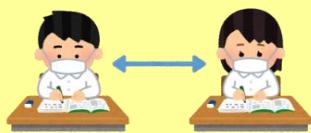
留意点

- ① 学習成果につながらない「活動あって学びなし」の授業に陥らないようにする。
 - ② 「対話的」を意識するあまり、対話することが目的となるような授業にならないようにする。
 - ③ 指導の型をなぞるだけで意味のある学びにつながらない授業にならないようにする。
- 何のために活動を取り入れるのか教師の意図を明確にする。

「新しい生活様式」における「対話的な学び」の例

～押さえない感染防止対策の5つの基本～ 「マスクの着用・身体的距離の確保・短時間・換気・授業後の手洗い」

(1) 子供同士（学級全体も含めて）の場合



1 mを目安に最大限身体的距離を確保しつつ、飛沫の向きを考慮して体の向きを決めたり、透明スクリーン越しに対話したりする。

ア 机の配置や体の向き等の工夫



学習活動に応じて、ハンドサインやジェスチャーなどを使って交流する。

イ 非言語を使用



学習活動に応じて、優れた考えの共有化を図ったり、チャット機能を活用して考えを交流したりする。

ウ ICT・オンラインを使用



感染防止対策をした上で、思考ツール（ベン図、フィッシュボーン、クラゲチャートなど）を活用する。

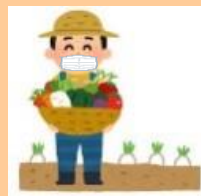
エ 付箋・メモ・ワークシートを使用

(2) 教職員や地域の人と関わる場合



感染防止対策をした上で、全体指導や個別指導において、教師は児童生徒の発言に対して切り返したり、問い直しをしたりするなど、児童生徒とのやりとりを工夫する。

ア 授業者と児童生徒のやりとりの工夫



感染防止対策をした上で、地域の人と関わる。
町探検をする場合には、店外で交流するなどの工夫をする。

イ 地域の人との関わり方の工夫



相手の都合に合わせて、インタビュー録画や質問紙を含む手紙等を使用することも考えられる。

ウ インタビュー録画や手紙等を使用



ビデオ会議アプリを使用して関わることも考えられる。

エ オンラインを使用

(3) 先哲の考え方を手掛かりに考える等



書籍やHP等の内容から、先哲の生き方や考え方を想像する活動などが考えられる。

ア 教科書や資料、ネットの情報と対話



想像した先哲の生き方や考え方に対する自分の考えをまとめる活動などが考えられる。

イ 自己内で対話

※ (1)～(3)の対話を組み合わせると、さらに効果的である。

2 本市における「対話的な学び」取組例

例② 資料提供者 富士見市立鶴瀬小学校 主幹教諭 鈴木 洋

【教科】学級活動【単元等】「5年生になって」

【対話の場面】(1) 子供同士（学級全体も含めて）の場合ーア

5年生の学校生活での不安を解消するための方策を付箋に書いて台紙に貼り小グループで意見交流を行う。その後、各グループの台紙を黒板に貼り、それを参考にしながら自分自身の個人目標を決定する。



自分がこれから頑張ることを付箋に書いています。



付箋を台紙に貼り、話し合いを深めていきます。

【指導者の意図】

「希望や目標をもって生きる意欲や態度」の育成を図るために、高学年として学習や生活、委員会活動等でどんなことを頑張るのか個人目標を立てさせた。集団思考を生かし、個々の実践に具体性をもたせるために、児童同士の話し合いを行った。その際、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として付箋を活用した。

例③ 資料提供者 富士見市立水谷小学校 教諭 林 義幸

【教科】国語科【単元等】「よりよい学校生活のために」

【対話の場面】(1) 子供同士（学級全体も含めて）の場合ーア

教科書の例にある座標軸を用いて…



写真1（ホワイトボード）

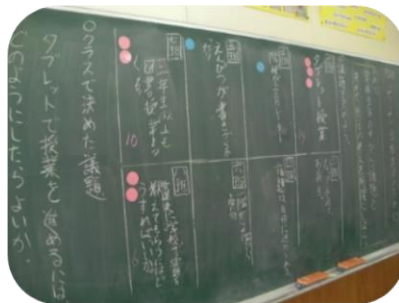


写真2（板書）



写真3（思考ツール）

【指導者の意図】

写真1では、個人にホワイトボードを配付し、意見を交流させている。メリットは、書き始めやすさと消しやすさである。写真2では、班の意見を見比べて、賛成・心配意見を募っている。写真3では、自分の意見が座標のどの位置に属しているのかを考えながら話し合いができる。

例④ 資料提供者 富士見市立水谷小学校 教諭 林 義幸

【教科】体育科【单元等】「跳び箱運動」

【対話の場面】(1) 子供同士（学級全体も含めて）の場合ーア



写真1（動画撮影）



写真2（めあての掲示）

NHK for School 体育ノ介の動画を主に活用しています。



写真3（見本動画と比較）

【指導者の意図】

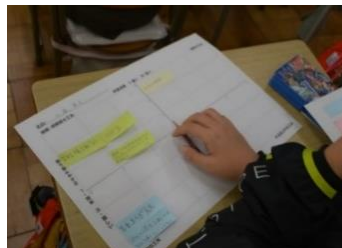
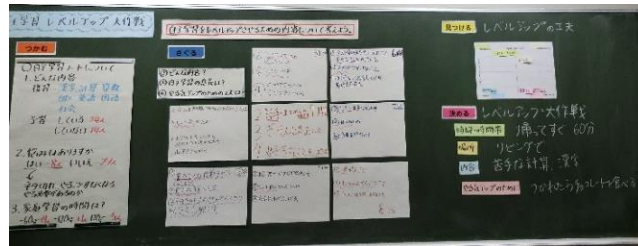
写真1では、動画を撮影して自己のできばえを見ることができる。写真2では、個人のめあてを掲示し、自己や友達のめあてを確認させる。写真3では、インターネット上の動画から運動のコツを考えたり探したりできる。

例⑤ 資料提供者 富士見市立勝瀬小学校 教諭 大槻 智子

【教科】学級活動（3）

【单元等】「自主学习レベルアップ大作戦を考えよう」

【対話の場面】(1) 子供同士（学級全体も含めて）の場合ーア



【指導者の意図】

感染防止対策のため、個人用プロット図を活用した。まず個人で考えた後、班の中で順番にプロット図を回して、友達のプロット図に考えを書いた付箋を付け足していく。自分にはなかった考えを友達から教えてもらい、できあがったプロット図の中から自分でできそうな取り組みを選択させて、自分の考えをより深めることをねらいとした。

例⑥ 資料提供者 富士見市立みずほ台小学校 教諭 赤間 隆平

【教科】総合的な学習の時間【単元等】「日光について」

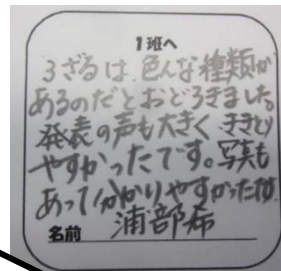
【対話の場面】(1) 子供同士（学級全体も含めて）の場合ーア



聞く人は一方向を向く



パーテーションによる飛沫防止をしながらの発表。



感想などの交流はプリントを使って行う。

【指導者の意図】

パワーポイントによる発表会を行った。その際、聞く人は一方向を向き、通常通りの席の配置で発表が聞けるように配慮した。発表者だけは聞いている人の方を向いて発表をさせるため、パーテーションで飛沫防止の工夫を取り入れた。

感想やアドバイス、よかった点などの交流は直接行わずプリントで行うようにした。

例⑦ 資料提供者 富士見市立西中学校 教諭 村瀬 智子

【教科】英語科（中学校3年生）【単元等】Unit 5 Living with Robots - For or Against

【対話の場面】(1) 子供同士（学級全体も含めて）の場合ーア

They are cheap. Students have them easily.



ペアで主張を考える

I see what you mean, but I think ...



グループ内討論

- 紙の辞書と電子辞書のどちらを使うべきか、それぞれの利点についてペアで主張を考える。
- 仲間の意見に対し「賛成意見」「反対意見」の述べ方に留意しながら、グループ内討論を行う。

【指導者の意図】

- 仲間と利点について主張を考えることにより、一人では思いつかない違う視点について気づかせる。また、英語の表現についても確認し、よりよい表現につなげることをねらいとする。
- それぞれの主張をもとにグループ内討論を行うことで、自分とは違う立場の主張に触れて考えを広げながら、意見の表明の仕方について練習することを目的とする。

例⑧ 資料提供者 富士見市立水谷中学校 教諭 小松崎 麻美子

【教科】社会科【単元等】「近畿地方 歴史の中で形作られてきた人々の暮らし」

【対話の場面】(1)子供同士(学級全体も含めて)の場合ーア

(2)教職員や地域の人と関わる場合ーア

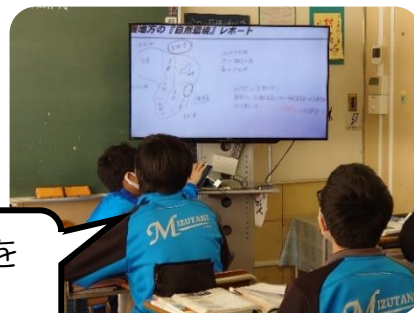


ソーシャルディスタンスをとって、それぞれが調べたことを、近くの人とシェア START!



しっかりまとめてある子のワークシートを写真に撮って…。

次はクラス全体にシェアをしてより考えを深めよう。



【指導者の意図】

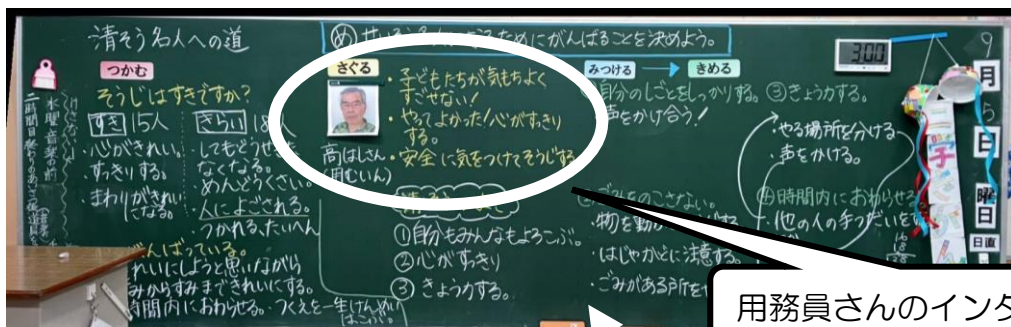
本来は小グループでのジグソー法を行っていたが、密になることを避けて今回はある程度の距離をとって、2つの課題に絞って自分の考えを広げ深める対話的な学びを深める授業を行った。また、それぞれのワークシートをタブレットで撮影し、全体で共有するために画面に出力することで、多様な考えを伸ばしていくことができると考える。

例⑨ 資料提供者 富士見市立鶴瀬小学校 主幹教諭 鈴木 洋

【教科】学級活動【単元等】「せいそう名人への道」

【対話の場面】(2)教職員や地域の人と関わる場合ーイ

用務員さんのインタビューを紹介し、「清掃のよさ」について話し合う。



【指導者の意図】

「社会参画の醸成や働くことの意義の理解」を図るために、清掃を題材に学習を行った。清掃は何のために行うものなのかを深く理解するために、用務員さんに事前インタビューをとり、その内容を児童に伝えた。身近にいる清掃に取り組んでいる社会人である用務員さんが清掃をするときに心がけていることや一生懸命清掃に取り組んだときの心持を聞くことにより、教師の話の聞いたり児童同士で話し合ったりするよりも、学習の目標を達成できたと考える。

例③ 資料提供者 富士見市立水谷小学校 教諭 林 義幸

【教科】 社会科

【单元等】 「自動車をつくる工業」

【対話の場面】 (1) 子供同士（学級全体も含めて）の場合ーア



先生にチェックしてもらった内容を書こう。

同じ考えの友達がいたから、ネームプレートを貼りに行こう。

友達の考えに付け足しがあるから書こう。

調べてわかったことや疑問に思ったことを書きます。

【指導者の意図】

単元の1時間目では、学習問題をつくるためにそれぞれの疑問を板書に出す。その後、児童の疑問をまとめて課題とし、どの課題から学習していくか学習計画を作成するのに使っている。調べる学習の際には、先生のチェックをもらった児童が書き始める。自分では、調べるのが苦手な児童は、ネームプレートを貼ることで自分の意見とする。